

生活環境学部 食物栄養学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

食物栄養学科では、食生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材を育成します。したがって、専門的知識を修得するのみならず、人々の健康増進と疾病予防のために広く社会に貢献できる能力を丁寧に養成します。学際的な教育を通じて、専門的知見と生活の質の向上につながる創造性を持ち、個人、家庭そして社会における質の高い食生活を主体的に提案できる人材を目指しています。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・食物栄養学のプロフェッショナルとして、食の観点から人々の健康と長寿に主体的に取り組む姿勢
- ・専門的で科学的な思考ができ、物の本質を考察できる能力
- ・自律的な行動と判断を行い、他者と柔軟なコミュニケーションを築き、個人、家庭そして社会の生活をリードできる能力

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、食物栄養学科の定める卒業要件を満たした者に学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

食物栄養学科のカリキュラムは教養教育科目と専門教育科目から構成されています。教養教育科目ではグローバルな視野を培う外国語科目、健康な生活の基礎づくりとなる保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養と創造性を身につけるための教養科目を提供します。これらによって、食物栄養学に関する研究課題に対して主体的に取り組み、科学的に探求する態度、論理的に思考する態度、計画的に実行する態度を身に付け、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成します。また、卒業研究を通じて自身の専門分野に関する研究を深め、成果発表することを卒業要件とします。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育内容と教育方法】

幅広い教育内容を反映して、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。それにより、分子から細胞、組織、臓器、生体、個体・社会までさまざまな視点から食物栄養学の基礎となる知識を習得します。専門性を高めるだけでなく、領域横断的でグローバルな視野をもって主体的に生活の問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。

【学修成果の評価の方法】

授業科目に対する成績評価については、科目修了試験と平素の学習状況を総合して行います。成績評価はあらかじめ成績評価基準を明示し厳正に判定します。なお、科目によっては、科目修了試験に替え、レポートの提出、実験や実習、演習の成果をもとに成績評価を行う場合もあります。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

食物栄養学科は、食物・栄養分野において日本のリーダーとなる専門家の育成を目指しています。食物という身近な素材から人びとの健康増進、疾病予防を考え、食物の栄養性、機能性、嗜好性、安全性、食環境などについて、ライフサイエンスを基礎とした教育を行っています。その対象は、化学物質（DNA、タンパク質、脂質、ビタミン等）や細胞、微生物などのミクロ分野から、個体、ヒト集団などのマクロ分野まで多岐にわたります。また、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員・管理者の養成課程を設置しており、病院や学校、保健所での実習を通して実践的教育も行っています。

【求める学生像】

食物栄養学科は、食や健康について興味を持ち、それを深く学び、将来、社会の中でそれを生かしたいと考えている学生を求めます。専門教育の内容を十分に理解するために、高等学校で化学・生物など自然科学全般に興味を持ち、学習しておくことが望まれます。また、英語は現代科学のグローバル化に伴い、食や健康に関する知識・情報などの収集・発信のために重要なスキルですので、高校生のうちに十分な能力を身につけておくよう努力してください。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、可否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語、情報の6教科8科目もしくは7教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科（物理、化学、生物）から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応し、高等学校における学びの分野にとらわれず、様々なバックグラウンドを持つ受験生を受け入れています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実施し、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに食物栄養学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考と第2次選考を行います。第1次選考では、提出された調査書、学習研究計画書などをもとに、高等学校における学習の達成度、食物栄養学に対する探究心などを評価します。第2次選考では、科学的な内容の文書(英語を含む場合があります)や実験データなどを読んで作成する小論文、プレゼンテーションおよび質疑応答をもとに、積極性や表現力、食物栄養学に対する探究心などを評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校を含む対象校※において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績(日本語、理科、数学)、TOEFLのスコアと、面接により、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに食物栄養学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

※対象校については本学ホームページ「学部入試(学生募集等)」に別掲